

12月は地球温暖化防止月間です

地球温暖化対策は節電対策にもつながります

私たちの日々の生活の中で、ちょっとした心がけや工夫により、思わぬ省エネ効果が期待できることがあります。また、エネルギーの無駄や使いすぎを防ぐ日々の取組は、二酸化炭素(CO₂)の排出削減による地球温暖化対策に有効なだけでなく、節電対策につながるものもあります。

ここでは、家庭ですぐできる冬の地球温暖化防止対策のうち、節電にも役立つ取組をご紹介します。できるところから無理なく始めましょう。

節電にも役立つ、家庭ですぐできる冬の地球温暖化防止のための取組

1 照明を使う時間を可能な限り短くする。

2 テレビを見る時間を少なくする(つけっぱなしにしない、見る番組を絞る)。

3 電気ポットや炊飯ジャー保温をやめる。

4 保温便座の設定温度を下げ、使わないときには保温便座のふたを閉める。

また、エアコンなどの電化製品を暖房に使用する場合は、次の取組も節電に有効です。

5 窓や床に断熱シートを貼る、カーテンやブラインドを閉めるなど、断熱効果を高める。

6 重ね着をする、湯たんぽやひざかけを活用するなど、あたたかくする。

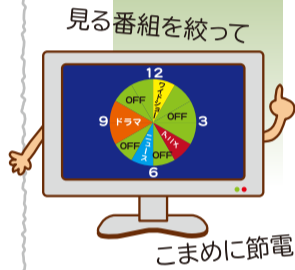
7 部屋のドアやふすまを閉め、暖房範囲を小さくする。

8 暖房の温度設定を控えめ(目安は20℃)にする。

9 扇風機などを使い、天井付近の暖かい空気を室内に循環させる。

10 暖房の使用時間を可能な限り短くする(外出30分前に消すなど)。

※全国地球温暖化防止活動推進センター「家庭ですぐ出来る冬の取組21」を参考にしています。その他の冬の地球温暖化防止のための取組もご覧ください。



環境政策課 ☎017-734-9243

陸奥湾ほたてがいの産業の再生・安定に向けて

昨年の夏季から秋季にかけて、陸奥湾の海水が過去に例のない高水温で推移したこと、ほたてがいの大量へい死被害が発生しました。昨年秋季に実施した調査の結果、ほたてがいの約7割がへい死したことが分かりました。



へい死したほたてがい

陸奥湾ほたてがいの産業の再生・安定に向けた取組

陸奥湾ほたてがいの産業を早期に再生させるためには、本年産の稚貝をきちんと確保することが第一歩です。また今後の安定生産に向けた技術の開発等が求められています。そのために漁業者や県等が実施している様々な取組をご紹介します。

本年産稚貝の確保

へい死によって少なくなった親貝から効率的に稚貝を確保する必要があり、漁業者は産卵が終了するまで出荷をガマンしました。また、今年は稚貝をとる「採苗器」を例年よりも多く作成し投入しました。(平年230万袋⇒本年296万袋)



採苗器の海中投入作業

ほたてがい座談会の開催

大量へい死の要因について、(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所の詳しい分析結果を漁業者に情報提供し、高水温による被害を低減するためには、どんな方法があるのかなど、漁業者と意見交換を行いました。(湾内16か所で開催)



ほたてがい座談会の様子

水温予測技術の開発

(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所では、陸奥湾の高水温発生メカニズムの解明と、水温を予測して漁業者に提供できるシステムの構築に向けて、技術開発に取り組んでいます。



新設された水温観測ブイ

増養殖技術の改善

ほたてがいの高水温耐性やへい死発生メカニズムなどの解明を進めています。また、へい死被害を低減できるような増養殖技術の改善に取り組んでいます。



ほたてがいの水温耐性試験の様子



波浪による振動防止のためゴム付きに改良された浮玉

皆さんに美味しい陸奥湾産ほたてがいを早く食べていただくため、漁業者もがんばっています!!

水産振興課 ☎017-734-9594